

平成21年度 決算特集号



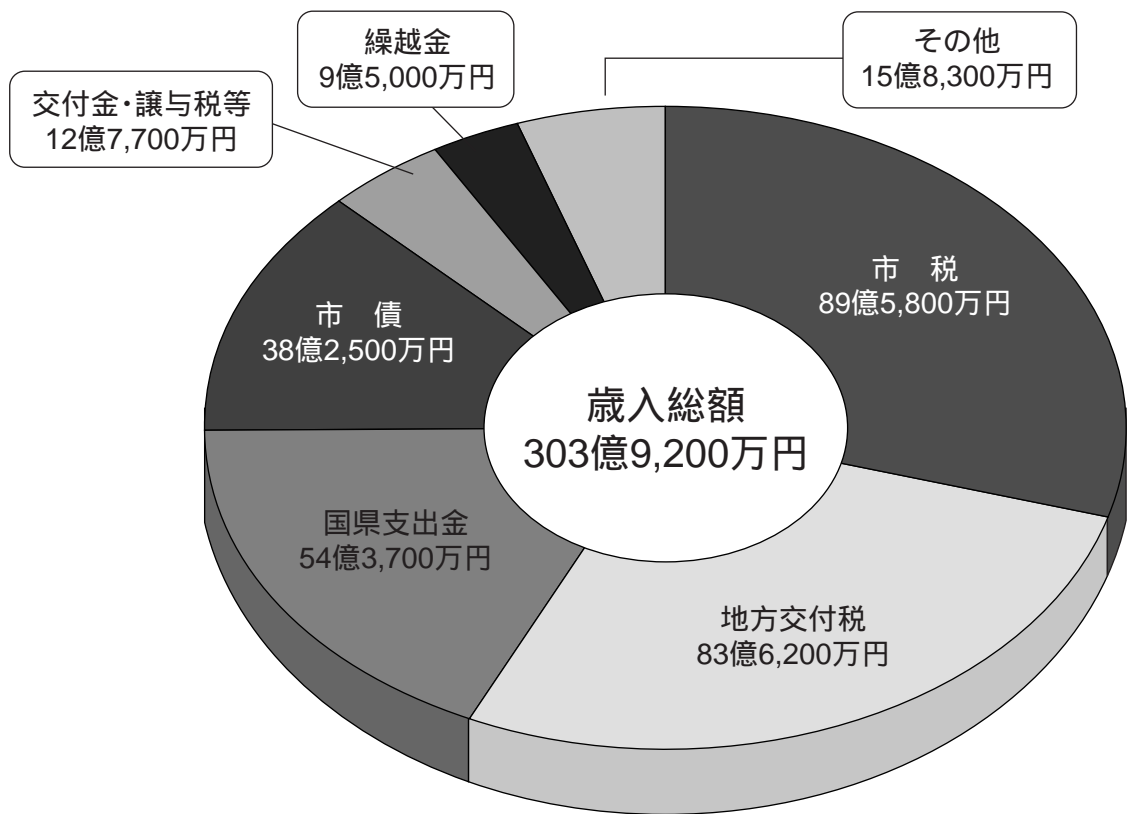
平成21年度に建設されたかすがい東保育所

平成21年度決算が9月議会で承認されました。

一般会計の決算内容を中心に「決算特集号」として詳しく紹介します。

CONTENTS

一般会計歳入歳出決算概要	2~5
合併特例債を活用した事業	6
国の経済対策を活用した地域活性化臨時交付金事業	7
ふえふき家の家計簿から	8~9
笛吹市の基金・市債の状況	10~11
財政健全化法指標報告	12



歳入

平成21年度の歳入決算額は、前年度より約4億8000万円増え、笛吹市誕生以来、初めて300億円を超え、303億9000万円の決算となりました。

主な内訳としては、市税の89億円が最も多く、続いて、地方交付税が83億円、国県支出金が54億円となっています。

歳入決算では、項目ごとに見ると、地方交付税が約3億円、国庫支出金が約6億5000万円、市債が約2億円それぞれ前年度よりも増加しました。

その反面、市税が約4億円減少したのをはじめ、各交付金・譲与税が約6000万円、繰越金が約5000万円の減少となりました。

市税については、長引く不況の影響から前年度より5・0%減の総額89億5800万円となりました。一方で地方交付税や実質地方交付税である臨時財政対策債が増額となり、市税の減少分を補てんした状況となっています。

国庫支出金は、国の経済対策として平成20年度から引き続き行われた地域活性化臨時交付金事業の実施に伴い大幅に増加しました。

市債の発行額は38億円となり

前年度に比べ6・7%増となりました。その中でも大部分を占めるのは、財源措置が講じられている合併特例債と臨時財政対策債で、ともに前年度と比べ、約5億円増加し、合併特例債は21億円、臨時財政対策債は14億円の発行額となりました。

これからも笛吹市は市民のみならず安心して暮らせるまちづくりを実現するため、無駄のない、より水準の高いサービスが提供できるように安定した財政運営に努めていきます。



財政用語ミニ事典

市税 市民が納める税金

○普通税：一般的な経費に使われる税金（市民税・固定資産税など）

○目的税：使用目的が決まっている税金（都市計画税・入湯税など）

【市では都市計画税は下水道・都市公園整備・区画整理事業に、入湯税は観光振興事業に使っています】

地方交付税 国が国税から、市町村の行政状況に応じて地方自治体に配分するお金

市債 市の借金

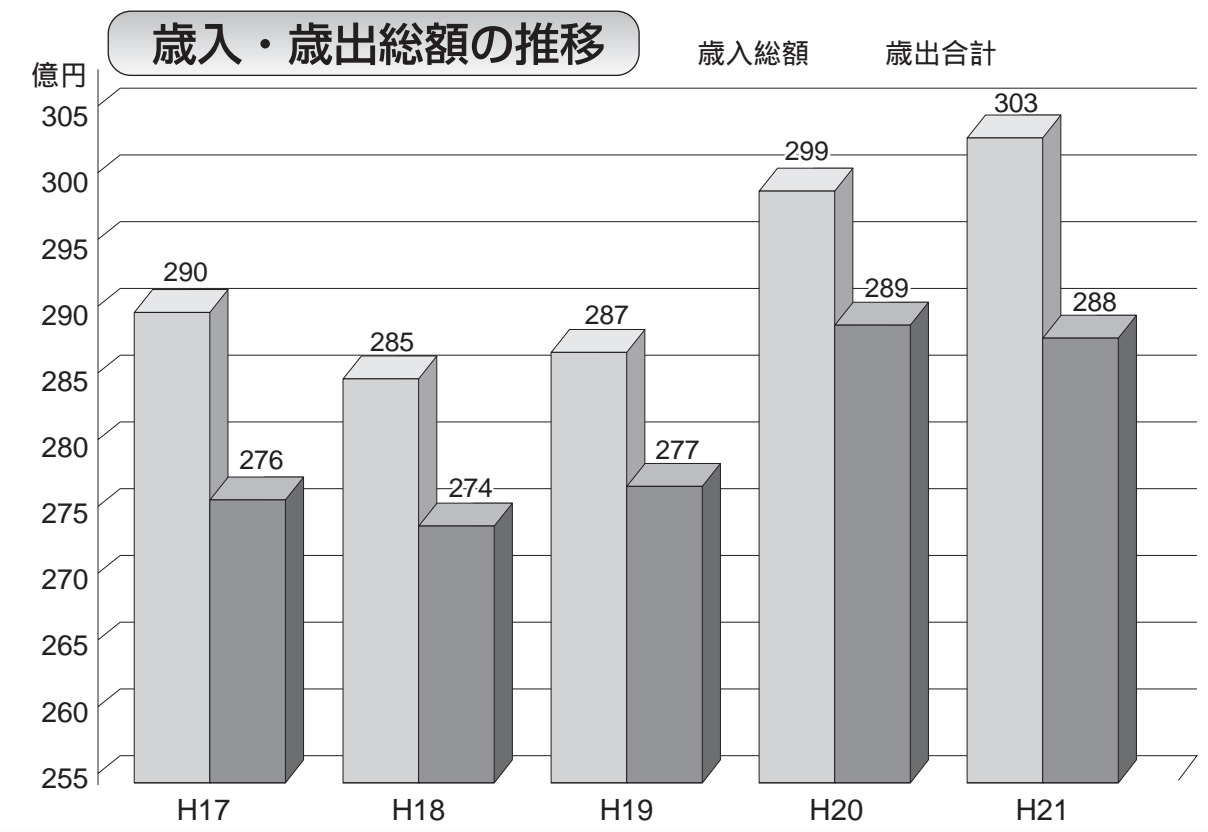
国・県支出金 国や県からの補助金

交付金・譲与税 国や県が税金として集めて、市町村に交付・譲与する収入（地方消費税交付金、自動車重量税譲与税、自動車取得税交付金など）

臨時財政対策債 国の財源不足により、普通交付税の替わりとして発行する市債（後年、全額が地方交付税に算入される）

特別会計決算

歳入	歳出
国民健康保険特別会計	79億2,564万円
老人保健特別会計	2,781万円
介護保険特別会計	44億3,048万円
介護サービス特別会計	1,739万円
後期高齢者医療特別会計	10億8,134万円
公共下水道特別会計	37億4,327万円
農業集落排水特別会計	7,318万円
簡易水道特別会計	7億4,936万円
恩賜県有財産保護財産区管理会(9特別会計合計)・・・	436万円
水道事業会計	(収益的支出)10億8,146万円
	(資本的支出)10億2,125万円
春日居地区温泉給湯事業会計	(収益的収入)6,394万円
	(資本的収入)□□□
	(資本的支出)1,014万円



平成21年度は平成17年度の歳入総額と比較すると約13億円増加しており、歳出総額は12億円増加しています。

歳出

平成21年度の歳出決算額は、前年度より約1億3000万円減少し、総額288億2500万円となりました。

内訳としては、民生費が82億円で最も多く、続いて土木費43億円、総務費38億円、公債費34億円となりました。

歳出の特徴としては、国の経済対策による地域活性化臨時交付金事業や合併特例債を多く活用したため、多方面にわたる社会基盤の整備や公共施設の新築・改修など、投資的経費の支出が増加したものの定額給付金や農林水産業費の経費が減少したため全体では0.5%減少しました。

歳出決算は、前年度に比べ、0.5%減少しました。

歳出の中で、最も多く支出したのは、福祉・医療・保育などの事業を行う民生費です。内訳としては、かすがい東保育所建設事業や国民健康保険特別会計への繰入金など、前年度より10億円の増額となりました。

また、道路・河川・公園などの整備にかかる土木費は、道路新設改良事業や石和駅前区画整理事業などに前年度より8億円多く支出しました。

教育費では学校ICT環境整備事業などの学校施設の整備や地域の体育施設の整備を行い、前年度比約4億円の増額となりました。

市では、将来の負担軽減を図るため、職員一丸となつて、歳出抑制などの行財政改革に取り組み、「小さな市役所」の実現を目指しており、事業執行に当たっては「選択と集中」の考え方をもち、事業の優先度を見極めたなかで、計画的な行政経営を行っています。

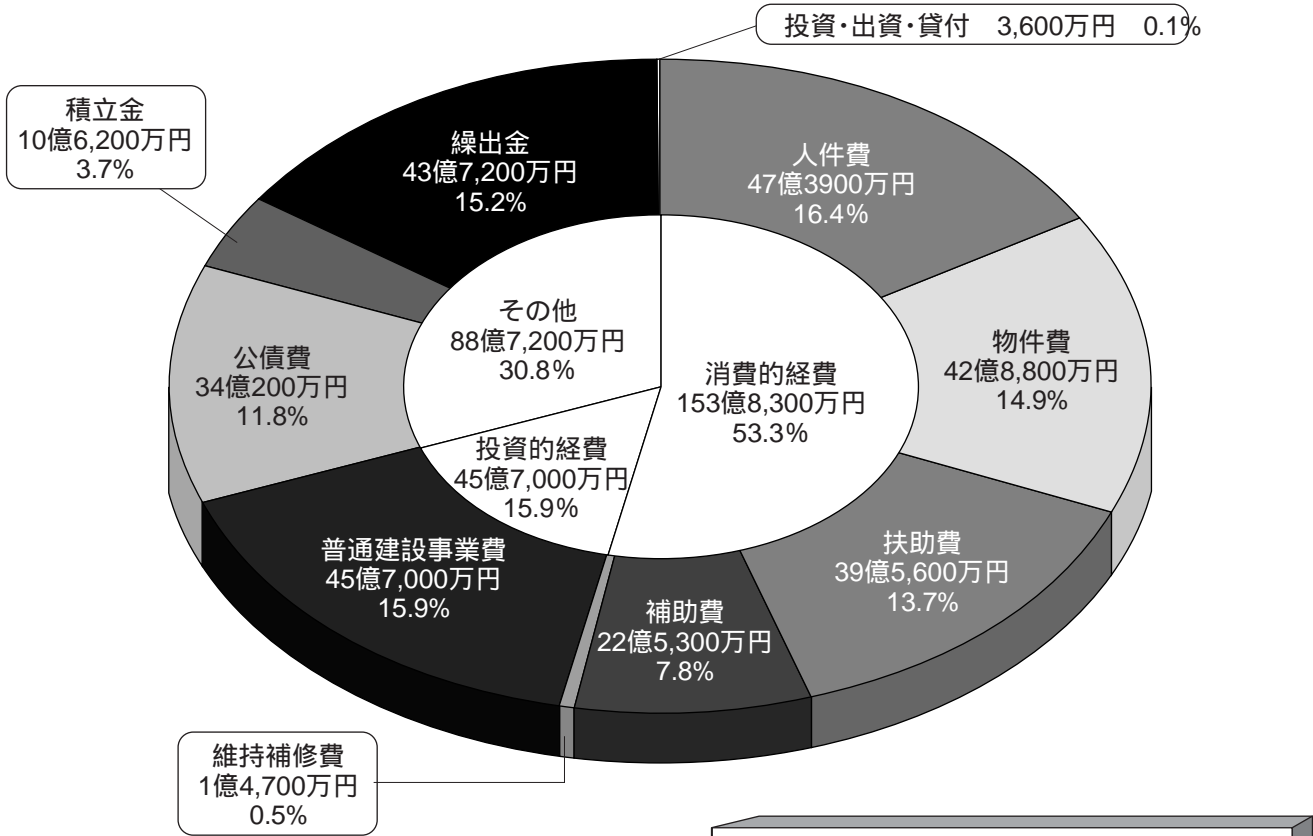
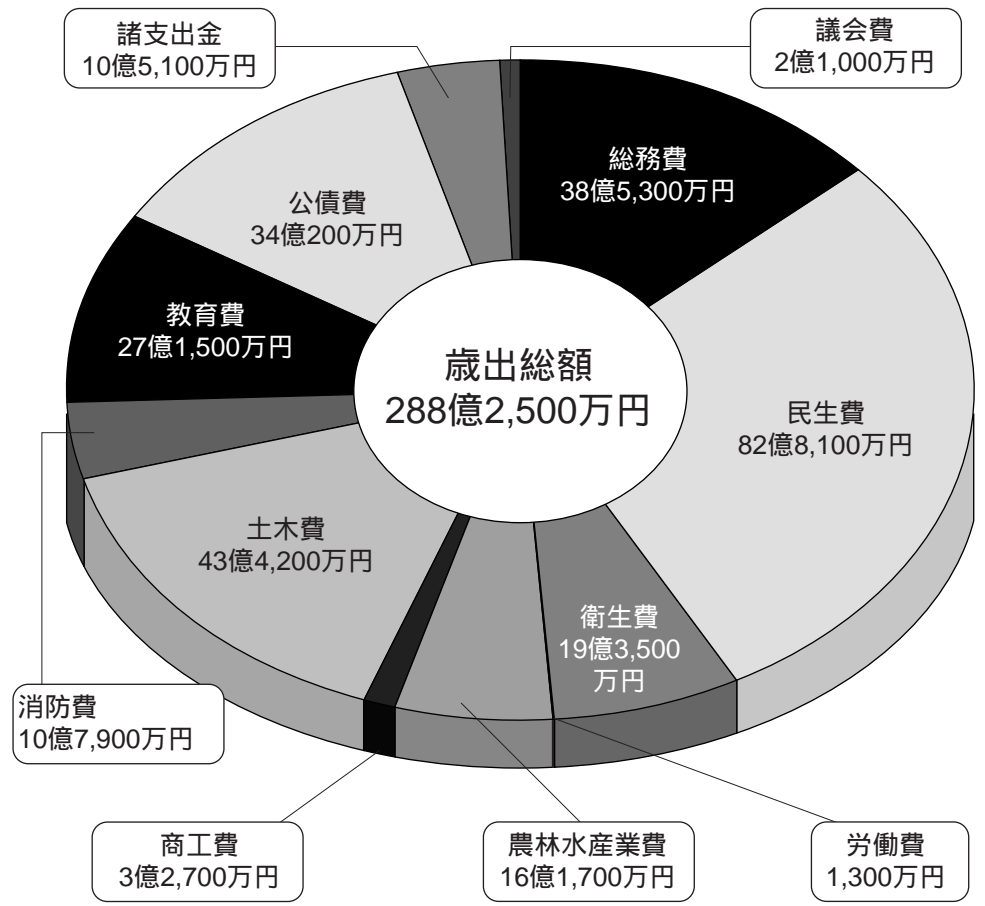
性質別 決算状況

前ページでは目的別による決算状況を紹介しましたが、ここでは歳出した経費を性質別に分類した内容をお知らせします。

性質別に分類すると、最も構成比が高いのは、人件費で総額47億3900万円となっています。しかし、本市では職員の定員適正化計画により職員の削減を図っており、前年度より1億3900万円減少しています。

次に構成比が高いのは普通建設事業の45億7000万円です。前ページで紹介したように地域活性化臨時交付金や合併特例債を積極的に活用して事業を行ったため、前年度よりも39.3%伸びています。

また、国民健康保険や下水道等の特別会計に支出する繰出金は43億7200万円と高額であり、他の自治体と比較しても構成比が高く、このことは、本市の財政構造の特徴とも言えます。



平成21年度に行った主な事業

事業名	金額
にぎわいのあるまちづくり	4500万円
市営バス等運行事業	4500万円
芦川農産物直売所建設	6400万円
石和駅前土地区画整理	5億8000万円
やすらぎのあるまちづくり	7億2700万円
ごみ減量化推進	7億2700万円
障害者の自立支援	1億1700万円
バイオマスの郷づくり	3800万円
子どもの予防接種	5000万円
にぎわいのあるまちづくり	950万円
協働のまちづくり	950万円
史跡甲斐国分寺跡整備	1億3900万円
学校施設耐震改修	2200万円

財政用語ミニ事典

総務費
庁舎管理、人件費、戸籍事務などへの経費

教育費
市立小・中学校の運営経費、文化財の保護管理、公民館、図書館、体育館などの文教施設の維持管理費、生涯学習活動経費など

公債費
市債返済のための経費(元利償還金)

衛生費
ごみ処理に関わる経費

農林水産業費
上水道事業や簡易水道に関わる経費

特別会計
一般会計とは独立して、特定の目的を持った事業を行う会計

消費的経費
人件費や消耗品費のように、後年度に形を残さない経費

投資的経費
その支出の効果が資本形成に向けられ施設や設備として将来に残るものに支出される経費

合併特例債を 活用した事業

活用した事業

市では、平成17年度から合併特例債を活用し、様々な事業を行ってきました。
合併した新市は、社会基盤の整備やまちづくりを行うのに、多額の事業費がかかります。
合併特例債は新市の負担を軽減するために、返済金の大部分が地方交付税に上乘せされる有利な地方債です。
合併特例債の利用期限は合併

した年度及び、その後10年間と決まっているため、市では、事業を厳選の上、平成26年度までの本制度を積極的かつ有効的に利用し、まちづくりを進めています。
平成21年度は、繰越分を含め約21億4400万円の特例債を活用しましたが、その事業内容を紹介します。
①事業名 ②事業内容 ③平成21年度合併特例債借入額

合併特例債とは？

合併町村が、まちづくり推進のため新市建設計画に基づいて行う事業や基金の積立に要する経費について、合併した年度及び、その後10年間に限り、その事業費として借り入れることのできる地方債のことをいいます。

事業費の約95%を借り入れることができ、後年その償還金（元金と利子）の70%が普通交付税で措置されます。

合併特例債は次のような事業が該当となります。

- ①道路・橋梁整備などの合併町村相互の交流や連携を円滑にする事業
- ②未整備地区への施設整備など合併町村間の均衡ある発展に資する事業
- ③現存する類似の目的を有する施設を統合する事業
- ④新市の地域振興等のための施設整備事業や基金の積み立て

- ① 準用河川整備事業
- ② 一宮町地内西田川整備
- ③ 6500万円

- ① 消防施設整備事業
- ② 消防団詰所・消防車更新
- ③ 5400万円

- ① 保育所建設事業
- ② かすがい東保育所建設
- ③ 2億1480万円



かすがい東保育所建設事業

- ① 上水道事業出資事業
- ② 境川町地内浄水場建設
- ③ 1900万円

- ① 農業基盤整備事業
- ② 市内農道・水路整備
- ③ 1億1620万円

- ① 道路新設改良事業
- ② 市内市道の新設・改良
- ③ 4億8900万円



一宮地内 塩田・金沢線道路整備

地域振興基金に4年間で総額38億円、平成21年度は8億3,500万円を積立てました。

国の経済対策を活用した

地域活性化臨時交付金事業

市では、平成20年度から国の景気回復対策により行われた地域活性化臨時交付金を活用した事業を行っています。現在も進行中の事業を含め、84事業を実施しており、総事業費は概ね27億円となります。

これらの交付金事業については、市の基盤整備が進んだばかりでなく、市内の多業種の中小企業や自営業者に事業発注したことで地域経済の回復にも寄与した

と考えられます。

平成20年度・21年度で実施した「緊急安心実現総合対策交付金事業」「生活対策臨時交付金事業」「経済危機対策臨時交付金事業」「公共投資臨時交付金事業」の5つの交付金事業の内容を紹介します。

緊急安心実現総合対策交付金

- ・長寿命化計画策定に伴う
橋梁点検委託事業 2,908万円

生活対策臨時交付金

- ・テニスコート整備事業（石和・一宮） 1億1,590万円
- ・御坂町・八代町通学路等道路整備事業 7,940万円
- ・消防車両購入事業 2,890万円
- ・道路維持管理事業（地区要望）6,010万円
- 他28事業



一宮テニスコート整備



高規格救急車配備

経済危機対策臨時交付金

- ・学校ICT環境整備事業（市内の小中学校の児童・生徒用のパソコン購入等）
- ・プレミアム商品券発行事業（1万円に15%のプレミアムをつけた商品券を発行）
- ・青色防犯パトロール車両購入事業
- 他27事業



青色防犯パトロール車両配備

きめ細かな臨時交付金

- ・快適な小・中学校、教育空間整備事業（市内の小中学校のトイレ整備・校舎の外壁修繕）
- ・市営温泉安心・快適事業（市営の3つの温泉施設の修繕等）
- 他12事業



市営温泉改修

公共投資臨時交付金

- ・小・中学校太陽光発電システム整備事業
- ・春日居中学校武道場整備事業
- ・芦川農産物直売所建設事業
- 他2事業



小学校校舎改修

ふえふき家の家計簿(平成21年度)

支出				収入			
ふえふき家の家計簿 ← 一般会計決算				ふえふき家の家計簿 ← 一般会計決算			
支出の内訳		性質別歳出		収入の内訳		歳入内訳	
			昨 年 比				昨 年 比
A 食費	91	人件費	47 -1	給与収入	176	市税	89 -5
B 保険・医療・税金	74	扶助費	39 +3	パート収入	26	譲与税・交付金	13 -1
C 住宅ローン返済	69	公債費	34 -7	住宅ローン借入	75	市債	38 +2
D 光熱水費、衣服				定期預金解約	10	繰入金	5 +3
住居、教育	86	物件費	43 +1	昨年からの繰越	18	繰越金	9 -1
E 家の改築	90	普通建設事業費	46 +13	定期貯金利子等雑入	22	その他	11 -1
F 電化製品の修理	5	維持補修費	1 0	生活費援助			
G お父さんのこづかい	46	補助費	23 -8	(親からの援助)	166	地方交付税	84 +4
H 子どもへの仕送り	86	繰出金	44 +3	家の改築援助			
I 定期貯金	23	積立金	11 -5	(親からの援助)	107	国県支出金	54 +3
支出合計	570	歳出合計	288 -1	収入合計	600	歳入合計	303 +4
	(万円)		(億円)		(万円)		(億円)

去年は会社の不況のせいか俺の給料(市税)も妻のパート収入も減ったなあ…(※1)

でもおじいちゃんたちからの援助(国・県からの補助金)が増えたから助かったわね。(※1)

医療費も増えてきているし、去年は家の改築費用(普通建設事業費)もあったしな…

そうそう! 子どもへの仕送り(繰出金)も増えてるわ!(※2)

僕もバイトしたり奨学金借りたりして、やりくりしてるんだよ…

そうね…。それに家も古くなっているし、将来的には建て替えも考えないとね…

そのためには貯金(積立金)もしないとね

子どもたちにもお金がかかるし、ローンの返済も増えるから、一家の大黒柱として頑張って働かないとな。

※1□ 景気悪化により市税や地方譲与税などは増えていませんが、地方交付税や国・県からの補助金は増額となりました。国からの補助金は主に経済対策のための増額です。(7ページで紹介)

※2□ 国民健康保険、介護保険、下水道などの特別会計の不足分を一般会計から繰出金として支出しています。特に平成21年度は医療費の増加により、国民健康保険特別会計に例年よりも多くの繰出しを行いました。また、下水道事業についても、毎年、借金返済のために多額の繰出しを行っています。

ふえふき家の家計簿から 笛吹市が収入600万円の家庭だとしたら?

市の財政を、わかりやすくするために、市一般会計の決算内容を一軒の家計に例えてみました。(一般会計の歳入総額の303億円を総収入600万円のふえふき家の家計簿に置き換えてみました)

収入【600万円】

自主財源【327万円】

給与収入【176万円】

□市税

市民の皆さんや会社から納めていただいた税金

パート収入【26万円】

□譲与税・交付金

国税として徴収して市に譲与・交付されるお金

住宅ローン借入【75万円】

□市債(市の借金)

公共施設(道路・学校など)の建設や改修をするための借金

定期貯金解約【10万円】

□繰入金

基金を取り崩したお金
昨年からの繰越【18万円】

定期貯金利子等雑入【22万円】

依存財源【273万円】

生活費援助(親からの援助)

【166万円】

□地方交付税

普通交付税と特別な要因に応じて交付される特別交付税

家の改築援助(親からの援助)

【107万円】

□国・県支出金

事業の経費の一部を国や県から支出されるお金

支出【570万円】

消費的経費【366万円】

生活する上で、欠かすことができない経費

□食費【91万円】

□人件費

市役所の職員の給与や各委員さんの報酬など

□保険・医療・税金【74万円】

□扶助費

障害者や高齢者への助成・生

活保護費や児童手当など

(例)生活扶助費、障害者医療費、乳幼児医療費など

◎住宅ローンの返済【69万円】

□公債費

地方債(市の借金)の返済金

◎光熱水費・衣服の購入など

【86万円】

□物件費

消費的な性質をもつ経費で、賃金・旅費・需用費・委託料などの費用

◎お父さんのこづかい【46万円】

□補助費

市内の団体活動への補助金や負担金など

投資的経費【95万円】

(より良い生活環境を整える費用)道路や施設などの建設改修に支出される経費

◎家の改築【90万円】

□普通建設事業費

道路・学校などの公共施設の新増設に必要な費用

◎電化製品の修理【5万円】

□維持補修費

道路や学校などを修繕するための費用

その他の経費【109万円】

◎子どもへの仕送り【86万円】

□繰出金

一般会計から特別会計に支出する費用

(例)国民健康保険特別会計繰出金、下水道特別会計繰出金など

①定期預金【23万円】

□積立金

将来のために積み立てるお金

(例)財政調整基金積立金



市債とは、学校や公園・道路・上下水道などの公共施設の整備や災害復旧などの公共事業の財源として国や金融機関から借り入れる借金です。

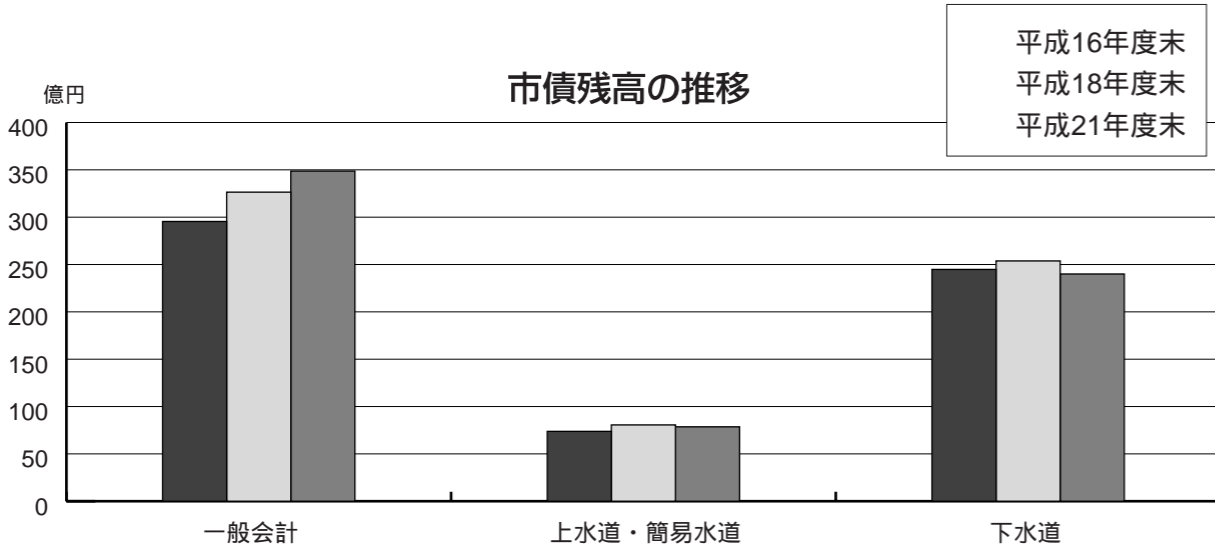
市債には事業の内容に応じて様々な種類がありますが、平成13年度から国の財源不足による地方交付税の補てん措置として、一般財源として自由に使える臨時財政対策債の発行が認められています。平成21年度末の市債残高は、一般会計分が約348億6,860万円、公営企業会計分（上下水道）が約318億5,814万円で、市全体では667億2,674万円となります。市民一人当たりで換算すると92万6,387円を借金していることとなります。

市債が一般的な借金と異なる点は、返済金である元利償還金の一部もしくは全部が後年において地方交付税で措置されるため、有効利用することにより、財政運営の安定につながります。

現在、本市の一般会計においては地方交付税で措置される割合の高い合併特例債（6ページ参照）と臨時財政対策債の発行が多くなっています。

会計名	平成16年度末 (笛吹市が誕生)	平成18年度末 (旧芦川村が合併)	平成21年度末
一般会計	295億4,671万円	326億4,413万円	348億6,860万円
うち合併特例債	0	21億6,313万円	69億8,183万円
うち臨時財政対策債	50億960万円	73億6,645万円	98億7,806万円
上水道・簡易水道	73億7,833万円	80億5,880万円	78億5,815万円
下水道	244億8,140万円	253億7,906万円	239億9,999万円
笛吹市合計	614億644万円	660億8,199万円	667億2,674万円

知っておきたい！
笛吹市の市債（借金）の状況



一般会計市債残高の内訳【平成21年度末】 ()内は普通交付税措置率を示しています。

合併特例債	69億8,183万円 (70%)	臨時財政対策債	98億7,806万円 (100%)
道路等整備事業債	47億3,579万円 (30~50%)	義務教育施設債	28億2,330万円 (50~70%)
その他	104億4,962万円		

一般会計市債残高348億6,860万円のうち
 地方交付税として措置される金額.....約200億5,000万円
 市の自主財源で返済する金額.....約148億1,860万円

笛吹市の基金っていくらあるの？

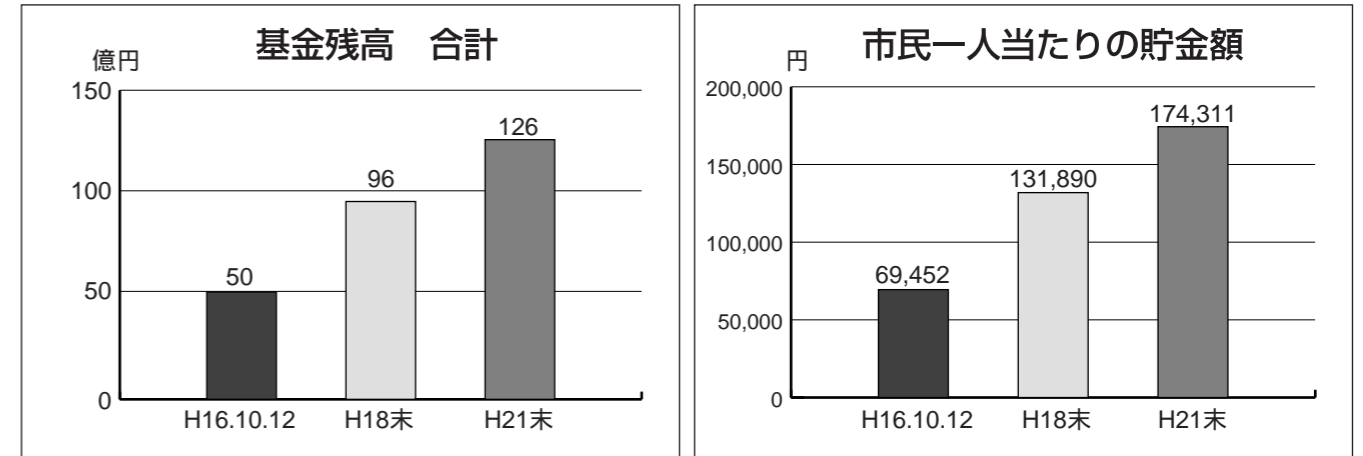
市には現在、一般会計に16種類の基金があります。基金というのは家計でいうと預貯金のことです。支出を節約したり、収入が多かった場合には積立をして、臨時の出費があるときには取り崩しをしています。

下の表は市が誕生した当初（平成16年10月12日）と旧芦川村が合併した平成18年度末、そして平成21年度末の主な基金残高（預貯金残高）を示しています。

平成21年度末には市民（外国人を含む）の一人当たりの預貯金額は174,311円となり、市誕生から比較すると約10万円増えています。

	平成16年10月12日 現在(笛吹市誕生)	平成18年度末 (旧芦川村合併後)	平成21年度末
財政調整基金	18億7,272万円	23億4,693万円	22億745万円
減債基金	3億5,022万円	4億7,771万円	9億8,067万円
公共施設整備等基金	1億7,893万円	20億6,024万円	19億2,641万円
地域振興基金	0	18億7,697万円	47億9,264万円
その他(12基金)	26億4,094万円	28億1,656万円	26億4,829万円
合計	50億4,281万円	95億7,841万円	125億5,546万円

合計は「現金」のみの残高です。その他に土地、株などがあります。ただし、地域振興基金については証券を含んでいます。



財政調整基金：急激な税の落ち込みや災害などに備えるための預貯金です。

減債基金：借金の返済のための財源を確保しておく預貯金です。

公共施設等整備基金：学校や道路・公園などの公共施設を整備するための預貯金です。

地域振興基金：合併した市町村が、地域住民の連携の強化や地域づくりをすすめるための預貯金です。この預貯金の原資は合併特例債の約38億円を活用して積立をしました。この預貯金は借入金の返済が終わったものから使うことができますが、利子については、毎年、ボランティア団体への助成金や、各地区の夏祭り、スポーツ大会への補助金として活用しています。

財政健全化4指標ってなに？

平成19年度に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が施行されました。この法律は地方自治体（市町村等）の財政破たん（会社でいう倒産）を未然に防ぐために財政の健全度を表す「健全化判断比率」の4つの指標（1）と公営企業（上下水道など）の経営状況の健全度を示す資金不足比率を算定し、公表することを義務付けています。

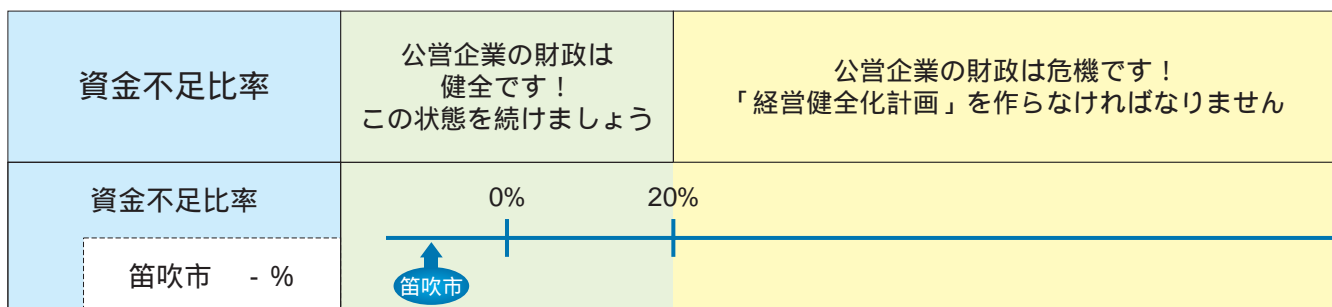
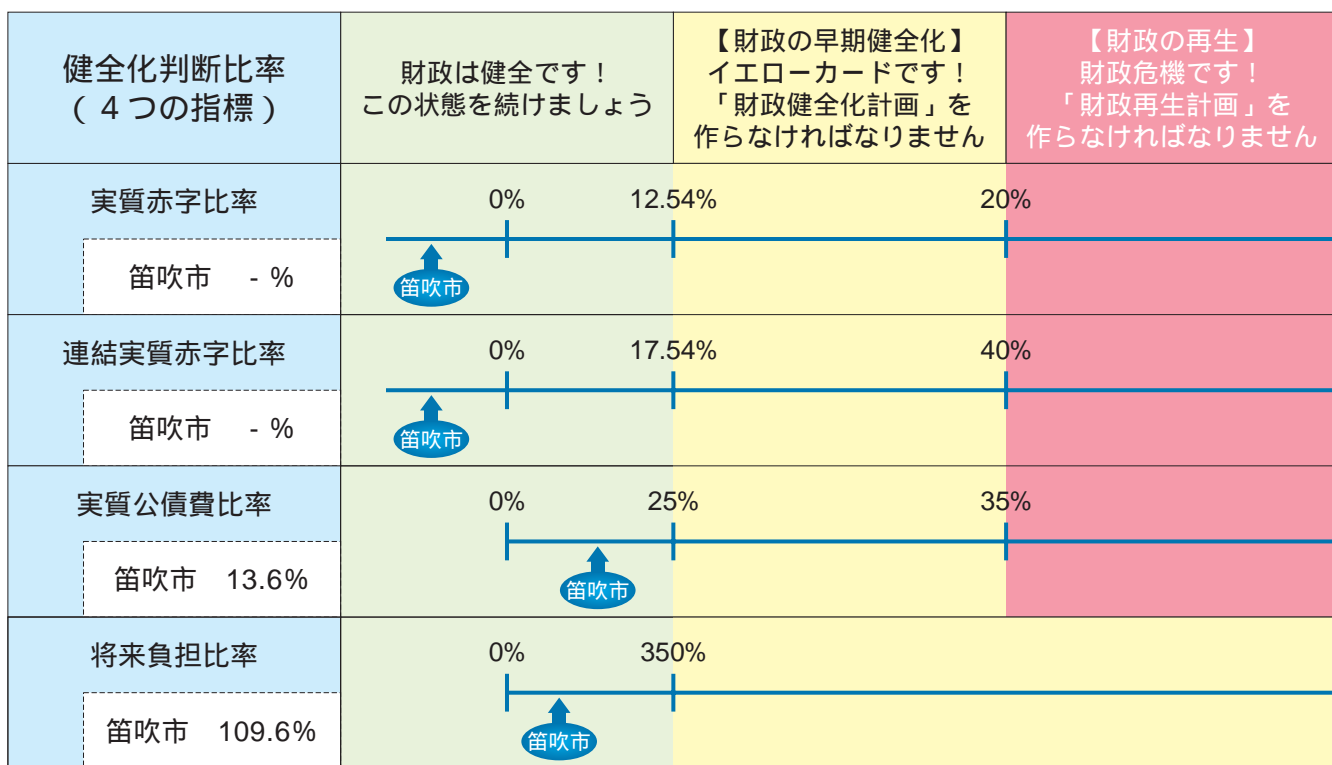
平成21年度決算における各比率の状況を、皆さんにお知らせします。

平成21年度もすべての指標が健全の基準内となり、笛吹市の財政が健全であることがわかります。



【※1】

一般会計等の赤字をみるには・・・ 実質赤字比率	全会計の赤字をみるには・・・ 連結実質赤字比率	借金などの財政負担をみるには・・・ 実質公債費比率	市の将来の負担程度をみるには・・・ 将来負担比率
-----------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------



笛吹市は全会計とも赤字決算ではないため、「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「資金不足比率」における比率は表示されません。

■問合せ先 財政課 ☎ 055(262)4111

●発行/2010年11月1日 山梨県笛吹市役所

●編集/経営企画課・広聴広報担当

●所在地/〒406-8510 笛吹市石和町市部777番地 ☎ 055(262)4111

●URL <http://www.city.fuefuki.yamanashi.jp>